

少年男子・少年女子見事ベスト8、第5位入賞！

第73回 福井国体 “ の御報告

8月の国体・近畿ブロック大会で、少年男子(神戸村野工業高校)が、大阪府には敗れたものの滋賀県(比叡山高校)を見事撃破して2位通過を果たした。

この結果、成年女子、少年女子の2位通過と併せ、予選のなかった成年男子の全4種目が本国体に出場するという兵庫国体、長崎国体以来の快挙となりました。

さて、福井国体(10月4日～8日)での成績報告をいたします。

会場の勝山市体育館「ジオアリーナ」と宿舎が離れていることもあり、少年男子・女子は1日早く、3日から現地入りさせ環境に慣れさせる対応をした。

成年男子は、1回戦で島根県に快勝したあと、2回戦で組み合わせの不運で第1シードの富山県と対戦、勝ち負けよりも、何点取れるかに目標を定めた。鈴木 雄一郎・友金 利玖斗のダブルスが善戦、14点を獲得し大いに会場を沸かせたものの敗退。

成年女子も、組み合わせの不運で1回戦から、第2シードの熊本県と対戦。ダブルスは良く頑張り第1ゲームを18点で敗れるも、2ゲーム、3ゲームを連取、見事勝ちましたが、シングルスは実力差が明らかな敗退となりました。

少年男子は初戦、石川県と対戦。ダブルスの安井 颯杜・鈴木 勝也は危なげない試合運びで快勝。第1シングルスは、あえて安井 颯杜を連ちゃんさせたが、疲れもあり第1ゲームを落とし心配させたものの見事、第2・第3ゲームを連取しての勝利。まずはベスト8入りを果たしてくれた。ベスト4入りをかけての準々決勝、第4シードの北海道戦では、いいとこなしの敗退。

少年女子は、1回戦の相手が強豪福岡県。ダブルスをあっさり落とし、暗雲垂れこめたが、第1シングルの去来川 琴葉が見事な動きで快勝、第2シングルの齋藤 さくらも、去来川に負けじと良く頑張り、第2ゲームを落としたものの、2対1で退け、難敵を退けての1回戦突破。2回戦の相手は、第1シードの茨城を撃破した福島県となった。ダブルスは福岡県戦とは見違える良い動きを見せての完勝。第2シングルの去来川は1対1のあと、第3ゲームを快勝して勝利。よもやのベスト8入りを果たしてくれた。ベスト4入りをかけての準々決勝の相手は、強豪・神奈川を撃破しての千葉県。ダブルスはインターハイ3位の齋藤 さくら・松久 紘が、第1ゲームを落としたものの第2、第3ゲームを連取しての勝利をしたがさすがはシングルスは強く第1・第2シングルス共に完敗、ベスト4入りは夢についえた。

今回の国体は、成年女子が第2シードの熊本、成年男子は第1シードの富山、少年女子も2回戦で、第1シードと当たる不運な組み合わせとなり、唯一、少年男子が第4シード枠に入り期待を持たせる中でスタートではあったが、予想だにできなかった少年女子の健闘で、少年男子、少年女子の両方がベスト8入り(5位入賞)するという好成績を残すことができた。両種目とも次回の茨城国体のシード権獲得という大きな財産となった。

平成 30年 10月 11日

兵庫県バドミントン協会 理事長 瀬川 欽也